

『竹生島弁財天御本地』考

-『まつら長じや(上方版)』との比較を中心に-

吉岡浩人* | 瑞逸大学

〈 목 차 〉

- 1.はじめに
2. 作品にあらわれる認識
 - 2.1 女性は邪慳とする認識
 - 2.2 孝行心に對する認識
 - 2.3 家の繁盛に對する認識
3. 女性への教育方法
 - 3.1 行動後の結果による直接的(表面的)な教訓
 - 3.2 對極化による間接的(裏面的)な教訓
4. 結論

국문 초록

본고에서는 선행 연구에서는 해명되지 않은 奥淨瑠璃『竹生島弁財天御本地』의 독자적인 특징 및, ‘사요히메 이야기’의 작품군에서의 위치(셋쿄부시『上方版』과의 거리 등)을 보다 명확히 구명하려고 했다.

『竹生島弁財天御本地』는 『上方版』에 비교해서 효의식에 관해서 강한

* 요시오카 히로토, 서일대학교(瑞逸大學校) 비즈니스 일본어과(ビジネス日本語科) 助教授, 韓日比較文學 口碑文學 國語教育

모순을 안기는 작품이었다. 이것은 『竹生島弁財天御本地』의 座頭가 맹인때문에 논리적으로 작품 전체를 보면서 창작하거나 수정하거나 하는 것이 곤란했으므로 모순성이 강하게 나타났다고 추측할 수 있었다. 그리고 『竹生島弁財天御本地』에서는 『上方版』에 비교해 ‘효’가 포함된 말을 수량적으로 세배 사용함으로 효의 중요성을 강조하고 있었다. 이 수법도 『竹生島弁財天御本地』의 座頭가 맹인때문에 작품전체를 보면서 창작하기 어려운 점이 있는 결과, 그 장면, 그 장면에서 강조하기 위해서 되풀이가 생겼다고 추측되었다. 또 여성에 대한 교육 방법으로서 행동후의 결과에 의한 직접적(표면적)인 교훈의 방법과 대극 화(對極化)에 의한 간접적(이면적)인 교훈의 방법이 있었지만, 『竹生島弁財天御本地』는 『上方版』에 비교해서 교훈의 종류 내용의 수와 교훈의 종류 내용의 전체 총수가 상당히 많았다. 이것은 『竹生島弁財天御本地』는 『上方版』에 비교하고, 많은 교훈의 종류 내용을 되풀이해서 교육하는 수법을 사용하고 있는 것을 의미하고 있었다. 이것도 『竹生島弁財天御本地』의 座頭가 맹인때문에 작품 전체를 보면서 창작하는 것이 어렵고, 그 장면, 그 장면에서 강조했기 때문에 되풀이가 생겼다고 추측할 수 있었다. 위에서 본 것 같이 奥淨瑠璃『竹生島弁財天御本地』의 창자(座頭)는 說經節『上方版』의 창자와 달리 맹인이었던 것이 『竹生島弁財天御本地』의 작품 형성에 영향을 준 결과 『竹生島弁財天御本地』와 『上方版』과의 사이에 상당한 차이가 생겼다고 보았다.

또한 『竹生島弁財天御本地』와 『上方版』에는 幕府·藩과 家長(계층)[계층]이 소망하는 내용과 寺社가 소망하는 내용이 있었지만, 『竹生島弁財天御本地』는 『上方版』에 비교하면 藩과 家長(계층)의 영향을 더욱 받고 있었다. 그 이유로서 다음 1, 2의 내용이 생각된다.

1 『竹生島弁財天御本地』를 가창한 座頭의 대부분은 当同座에 소속하고, 藩과의 관계가 깊었다.

2 座頭と藩에서는 일반적으로 여성은 邪慳(매정하고 무자비하고도 거침)·어리석다(愚か)라고 인식했다. 그 인식의 영향으로 家長(계층)이 소망하는 교훈 내용이 보다 많이 포함되었다고 생각된다.

특히 위의 『竹生島弁財天御本地』의 장자 층·작자 층(座頭)와 藩과의 관계가 깊었던 사실이 『竹生島弁財天御本地』에 새로운 다양한 교훈을 작품에 추가한 기인으로서 크게 작용하고 있었다.

■ 주제어 : 셋쇼부시, 위치, 오쿠쥬루리, 맹인

1.はじめに

東北地方の奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』は少女が亡き父を供養する爲に身を賣る孝行話で、様々な異本が存在し、本稿ではそれらを‘さよひめ話’の諸本群と呼ぶことにする。‘さよひめ話’の諸本群は現在、約32作品(異本)の存在が確認され、‘さよひめ話’の諸本群の中には作品の長さが比較的長い‘5つの広本’(『さよひめのさうし』、『さよひめ』、説経節『まつら長じや(上方版)』、説経節『まつら長者(江戸版)』、『まつらさよひめ』)と比較的短い略本(『坪坂縁起繪巻』、『壺坂物語』、『ちくふしまのほんし』、『つほさか』、『つほさかのさうし』、等)と奥浄瑠璃(東北地方の浄瑠璃で盲人專業の保守的芸能)が存在し、廣本系の諸本が先あって略本系が成立したとする學説と、反對に略本系の諸本が先あって廣本系が成立したとみる學説があったり、また奥浄瑠璃は廣本から派生し、その派生の過程には中央と東北の語り物の相互の交流があったとする學説等がある。¹⁾

1) ‘さよひめ話’の諸本群は叙述の繁簡・内容の粗密・文章の長短などの相違から広本、略本と、さらに東北地方で伝承した作品を奥浄瑠璃と、三種に分類でき、田中美絵氏は‘さよひめ話’の諸本17作品を考察し廣本系の諸本が先あって略本系が成立したと、奥浄瑠璃は廣本から派生し、その派生の過程には中央と東北の語り物の相互の交流があったと考えた。‘さよひめ話’の諸本には比較的長い五つの諸本(『さよひめのさうし』、『さよひめ』、『まつら長じや(上方版)』、『まつら長者(江戸版)』、『まつらさよひめ』)があるが、本稿では比較的長い五つの諸本を‘5つの広本’と呼ぶことにする。『さよひめのさうし』、『さよひめ』、『まつらさ

『竹生島弁財天御本地』考

この話と関連した伝説も各地で伝承され、‘さよひめ話’の諸本は当時の日本の庶民らが愛好した孝行話と考えられる。また‘さよひめ話’の諸本群と韓国の『沈清伝』に對して國際的な孝行話の比較を試みた論考も存在する。²⁾ そのような点で『竹生島弁財天御本地』の研究は古典庶民孝行文學の特質解明、及び、國際的な比較文學の基礎研究として重要である。

‘さよひめ話’の奥淨瑠璃作品における研究成果を調べてみると、作品の論議過程で話の展開を簡単に奥淨瑠璃の作品の間で比較したものや、奥淨瑠璃諸本19本を3種類に分類をしたものがあるが、作品それ自体に焦点を合わせ、作品の本格的な研究、及び、奥淨瑠璃作品以外の‘さよひめ話’と奥淨瑠璃作品の比較を試みたものは余り發見できない。³⁾ 本稿ではそのような問題意識を持

よひめ』は読み手を意識して作られた読み物(写本)である。拙稿, 『<まつらさよひめ>と説経節<松浦長者上方版>の比較研究』, 『日本学報』 第81輯, 韓国日本学会, 2009, pp.208-209 註5 参照。本稿では[『まつら長じや(上方版)』(室木弥太郎, 『新潮日本古典集成 説経集』, 新潮社, 1977, pp.345-389。なお本稿では研究資料を引用する時、原文にあった漢字の読み仮名を記述しなかった)]をテキストとして、テキスト上、と簡略化し表記した。『まつら長じや(上方版)』は寛文元年五月(1661年)刊記を有しており、『まつら長者(江戸版)』は刊年未詳であるが宝永初年(1704年)ごろの刊行と推定されている。横山重編, 『説経正本集 第一』, 角川書店, 1968, pp.460-465 参照。[『さよひめのさし』(横山重・松本隆信 編, 『室町時代物語大成 6』, 角川書店, 1978, pp.170-186, 室町時代(1334~1573年)末期ごろの写本)。[『さよひめ』(島津久基 編, 『近古小説新纂 初輯』, 中興館, 1937, pp.125-158)。『さよひめ』は近世初期の書写であると思われる。横山重 編輯, 『室町時代物語集 第4』, 井上書房, 1962, p.579 参考。『まつらさよひめ』は1661-1672年頃の写本であると思われる。阪口弘之, 『東洋文庫本「まつらさよひめ」(紹介と翻刻)』, 『大阪市立大学人文研究(国語・国文学) 巻号 34-4』, 1982, p.162を参考。なお本稿では『まつら長じや(上方版)』を簡単に『上方版』と表記することにする。

2) 야노 유리꼬, 『<사요히메설화>와 <심청전>』, 『比較民俗学』 10輯, 比較民俗学会, 1993, 李鎔美, 『説経「まつらの長者」와 판소리 「沈唱歌」의 효행 논리』, 『일본의 언어와 문학』第6輯, 단국일본연구학회, 2000, 拙稿, 『한국의 <심청전>과 일본의 <小夜姫>의 비교연구』, 서울시립대학교 박사학위논문, 2006 参照。

3) 奥淨瑠璃作品の間で比較し、奥淨瑠璃諸本の分類をしたものとして次がある。福田晃・神田洋・真下美弥子, 伝承文学資料集成 第十輯 奥淨瑠璃集成(一), 三弥井書店, 2000, pp.296-313 参考。奥淨瑠璃作品以外の‘さよひめ話’と奥淨瑠璃作品の比較を試みたものとして次がある。拙稿, 『竹生島弁財天御本地』研究』, 열린정신 『인문학 연구』 제13집 2호, 원광대학교 인문학연구소, 2012.

ちながら奥浄瑠璃作品の中で一番古いとされる奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』(刊記1833年)を研究対象としたい。⁴⁾ なぜなら五つの廣本が奥浄瑠璃作品の形成に影響を与えたと考えたら、五つの廣本と奥浄瑠璃の一番古い作品を比較することで五つの廣本と奥浄瑠璃作品の関連性を確認できると考えられるからである。

本論考では異本間の相違から獨自性を究明する方法は非常に有効だと判断し、特に‘さよひめ話’の諸本群の中で奥浄瑠璃作品以外の唯一の語り物の説経節作品に着目する。それで説経節的特性がより濃厚な中央の語り物の説経節『上方版(1661年刊記)』⁵⁾と、東北の語り物の奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地(1833年刊記)』を作品それ自体に関心を持ちつつ比較分析することで、先行研究では解明されなかった奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』の獨自的な特徴及び、‘さよひめ話’の作品群での位置(説経節『上方版』との距離等)をより明確にしたい。また必要に応じて『竹生島弁財天御本地』を『上方版』以外の五つの廣本とも對比することにする。殊に説経節作品(元々は口碑叙事詩から出發し人形と合體して視覚的な要素がより強くなった藝能)と奥浄瑠璃作品は芸能民によって語られ継承者を失い断絶した爲か、説経節と奥浄瑠璃の語り物としての特徴は究明されていないことも多く、さらにジャンルの違う説経節と奥浄瑠璃の共通点と差異点、さらに影響関係等は全然わかっていない。

この論文では次のように論議を進めていく。まず最初に『竹生島弁財天御本地』にあらわれる認識[女性は邪慳とする認識、孝行心に對する認識、家の繁盛に對する認識]について調べていく。次に女性への教育方法について考えることにする。そして結論で、論議で得られた結果を總括しまとめることで『竹生島弁財天御本地』の文學的な特質、及び、『竹生島弁財天御本地』の‘さよひめ話’の諸本群での位置(説経節『上方版』との距離等)をより具体的に究明することにする。

本稿は日本古典庶民孝行文學の深層的究明の爲、また中央から遠く離れた

4) [福田晃・神田洋・真下美弥子, 前掲書, pp.124-147]をテキスト竹、と簡略化し表記した。

5) 『上方版』は『江戸版』に比べて説経節的要素がより濃く内包していると考えられる。拙稿、『説経節<松浦長者 江戸版>の文學的特質』『日本学報』第76輯, 韓国日本学会, 2008 参照

東北地方の浄瑠璃作品の特性を理解する爲、そして‘さよひめ話’の諸本群における『竹生島弁財天御本地』の具体的な位置付けの爲にも基礎的かつ極めて重要な作業であると考えられる。さらには孝行教育の文學的資料としても活用価値があるであろう。その上、国外的には‘さよひめ話’の諸本群と韓國の孝行文學『沈清伝』との比較研究の基礎作業ともなるであろう。

2. 作品にあらわれる認識

2.1 女性は邪慳とする認識

(a) 『上方版』の場合

大蛇になる前の女は伊勢の國の生まれで、継母に憎まれ家を出て、さ迷っていた時、人商人に騙かされ、賣られ歩いたあげく八郷八村の里に買われて來た。そして彼女は運悪く、くじ引きで人柱として沈められるようになった。彼女は余りの悲しさに、『あら情けなき次第かな、八郷八村の里に、人多きその中に、自らを沈むるものならば、丈十丈の大蛇となりて、この川の主となりて、この在所の者どもを取つては服し、取つては惱ますものならば、七浦の里を荒さん』と言って大蛇になってしまった。大蛇は八郷八村の人々を憎み、強い恨みの心を持ちながら999年の間、999人の人を食べることで八郷八村の人々に恨みを晴らしてきた。

そして大蛇は999年の間、年に1人ずつの人を食べながら、諸人の嘆きを身に受けていた。それは大蛇のうろこの下に99000匹の虫が棲み、大蛇の体を責める苦しみであった。⁶⁾ これは大蛇に食べられた999人も成仏しないで、大蛇

6) “… 國を申せば伊勢の國、二見が浦の者なるが、継母の母に憎まれて、行方も知らず迷ひ出で、人商人にたばかられ、かなたこなたと売られ来て、この所に隠れもなき、十郎左衛門と申す者が買ひ取りて、憂きの思ひをつかまつる。そのころまでこの池は、わづかの小川にて候へしが、在所の人の集まりて、橋を架けんとして、一年に一度づつ、橋を架くれども、この橋つひに成就せざりけり。一つ所に集まりて、いかがせんとな談申す。中にも少年の寄りたる者の申すやう、博士を召し占はせんとて、やがて博士を呼び出す。博士参り、一々に占ひける。あら恐ろしの占ひや。これは見目よき女

の体に存在し、大蛇に作用していたと考えられる。⁷⁾ このように大蛇になる前の女は、人商人に騙かされ、八郷八村の里に買われて来たが、運悪く人柱になり、その恨みで大蛇になり悪行を行なってきた。この内容から大蛇(大蛇になる前の女)の強い恨みと大蛇の悪行は非常に良くないと思えるが、大蛇になる前の女は哀れで同情できる部分も発見できる。ところで『上方版』では大蛇(大蛇になる前の女)という特別な場合の内容であり、一般的な女性は身分に關係なく邪慳であるという認識は発見できない。

(b) 『竹生島弁財天御本地』の場合

吉さねは、女性は高貴な者も賤しき者も、邪慳な者であると聞いていると妻に言った。そして吉さねは妻に邪慳な心を持たないようにと語った。

如何に北の方、たかきもいやしきも、女はちやけんの物ト聞。… かいすかいすもちやけん心おもち給ふな。(テキスト竹 pp.139-140)[原文は縦書きで、傍線の部分は本来記号「く」になっているが、筆者が引用する時、横書きで書いた爲に、傍線の部分のように直した]

上のように女性は身分に關係なく一般的に邪慳で、またそのような心を持たないことを願う意識が発見できる。

また本文では高山賀門長者は非常に慈悲深い人であったが、長者の妻は情けも知らず、大悪無道の女であった。妻は人々から邪慳の女と言われ憎まれ

房を、人柱に沈めらるるものならば、橋は成就なるべしと占うたり。それこそやすき次第とて、やがてみくじをこしらへ、取り見れば、自らを買ひ取りし、十郎左衛門が当りしなり。さてこそ自らを沈めしなり。その折この川端へ参る時、自ら余りの悲しきに、『あら情けなき次第かな、八郷八村の里に、人多きその中に、自らを沈むるものならば、丈十丈の大蛇となりて、この川の主となりて、この在所の者どもを取つては服し、取つては悩ますものならば、七浦の里を荒さん』と、かやうに悪口し、つひに沈めかけられて、かやうの姿とまかりなる。きのふけふとは思へども、九百九十九年住まひをし、年に一人づつの人を取り、諸人の嘆きを身に受くる。その報ひにや、うろこの下に九万九千の虫が棲み、身を責むる苦しみは、なににたとへん方もなし。なんぼう物憂きことぞかし。かやうなる折節に、御身のやうなる尊き姫に会ふことは、ひとへに仏の御引き合はせ』と、喜ぶことは限りなし。”(テキスト上 pp.380-382)

7) 田畑真美, 「千年目の姫—「まつら長者」考」, 『富山大学人文学部紀要 34』, 2001, p.43, 14)を参考。

『竹生島弁財天御本地』考

ていた。さらに神仏三宝にも深く憎まれていた。

有時此女房、願事有おそろしや、「昔より夜ト言事なかれかし、惣て朔日一五日、廿八日盆ト正月なかれかし。二度のひかんもなかれかし。如何成者か初けん、五節句三朔もなかれかし。如何成者か初めしそ、是たにも無ならば、召仕の者供を、雨ふれ風ふけ夜日ト言事なく、召使者なら、日本に貳人ト無、長者に成へきか、あら口おしに次第なり」ト、ちむねおたゝきくとかるゝ。見る人聞人おしなへて、「扱もしやけんの女や」ト、にくまぬ者は無しける。事更神仏三宝にも、深くにしまれ給ひける、…（テキスト竹 p.130）【原文は縦書きで、「深くにしまれ」の「し」の部分は原文では横に(く)と記入されている】

そして高山賀門長者の妻は、余りにも邪慳の心だったので万民に憎まれ仏神にも見離され大蛇の苦患を招いて、大蛇になってしまった。大蛇は334人の一族、自分の3人の子供、妻の家族を食べてしまった。このように大蛇は自分の家族と家まで破滅させてしまった。そして大蛇は池に999年住み、1年に一度、女を人身御供に供えることを要求し、999人の人を食べてきた。

はつかしなから自は、あまりちゃけんの心にて、万民にくまれ、あまつさい仏神にも見はなされ、いつしか大ちやのくけんを請て、此池にすみて、九百九拾九年に成。其年月か内、みめよき女ふくす事、九百九拾九人成。（テキスト竹 p.143）

上記のように女性は邪慳な者である実例として高山賀門長者の妻を作品において登場させ、彼女は邪慳の爲、あげくの果、大蛇になり悪行を行なつたと述べている。

上のように『竹生島弁財天御本地』には『上方版』にあらわれる女の激しい恨みが發見できない。また『竹生島弁財天御本地』には『上方版』には存在しない、一般的に女性は身分に關係なく邪慳で、またそのような心を持たないことを願う意識が見受けられる。この『竹生島弁財天御本地』に存在する一般的に女性は邪慳であるという認識は五つの廣本には存在しない非常に獨特なものであるといえるし、『竹生島弁財天御本地』の作品の展開考える上で重要な

意味があると考えられる。また『竹生島弁財天御本地』にだけ、五つの廣本には存在する女性の激しい恨みが発見できない。

表	『上方版』	『江戸版』	『さよひめのさし』	『さよひめ』	『まつらさよひめ』	『竹生島弁財天御本地』
女性は邪慳とする認識	無	無	無	無	無	有
女性の激しい恨み	有	無	有	有	有	無

2.2 孝行心に対する認識

『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には、一見、理解し難い犠牲的な孝が作品中にあらわれている。ここでは兩作品から発見できる孝行心に對する認識について調べることにする。

2.2.1 孝行心の大切さを‘孝’が含まれた言葉で強調

『竹生島弁財天御本地』と『上方版』にあらわれる‘孝’が含まれた言葉に着目し、親孝行の重要性を示している部分を作品から書き出してみることにする。

(a) 『上方版』の場合

① これひとへに親孝行の志を、(テキスト上 p.388) ② 昔も今も、親に孝ある人は、(テキスト上 p.389) ③ 不孝のともからは、諸天までも加護なし。(テキスト上 p.389) ④ 生きたる親には申すに及ばず、なきあとまでも孝行を盡すべし。(テキスト上 p.389)

‘孝’が含まれた言葉が本文から4個発見できる。

(b) 『竹生島弁財天御本地』の場合

① をやにふ孝のともからは、(テキスト竹 p.128) ② 孝行盡し給ふへし。(テキスト竹 p.128) ③ 親孝行の道なれば、(テキスト竹 p.132) ④ 是かなんしか親孝行の徳により、(テキスト竹 p.132) ⑤ 親孝行の氣とくさに、(テキスト竹 p.134) ⑥ 能に孝行すくされよ。(テキスト竹 p.134) ⑦ 又は親孝行のきとくにや、(テキスト竹 p.143) ⑧ 又は姫君の親孝行、(テキスト竹 p.144) ⑨ おん身は孝行、(テキスト竹 p.144) ⑩ 又親孝行のきとく也。(テキスト竹 p.146) ⑪ 尤孝こそする者ト有へき也、(テキスト竹 p.146) ⑫ 今の世にはやらせ給ひけるも親孝行のきとくにそ、(テキスト竹

『竹生島弁財天御本地』考

p.147)

‘孝’が含まれた言葉が本文から12個発見できる。

上で確認したように『竹生島弁財天御本地』では12個、『上方版』では4個と『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて‘孝’が含まれた言葉を数的に3倍使用することで孝の重要性を訴えようとしていることがわかる。

2.2.2 孝行心の大切さを神的存在(天)が孝女を援助する方法で強調

『竹生島弁財天御本地』と『上方版』において神的存在(天)が孝女を援助する方法で孝行の重要性を強調している部分が存在するが、その部分を作品から書き出してみることにする。

(a) 『上方版』の場合

さよひめは太夫夫婦を家臣として信賴し、末繁盛し、父の長者の跡を継いだ。このことはさよひめの親孝行の志を、天上界の神仏が哀れんだからだと記述されている。

① これひとへに親孝行の志を、諸天哀れみたまひける。(テキスト上 p.388)

結末部分に不孝者には天上界の神仏も加護をしないと記述されている。

② 不孝のともがらは、諸天までも加護なし。(テキスト上 p.389)

神的存在が親孝行者を援助する方法で孝行の重要性を強調している箇所が2個存在した。

(b) 『竹生島弁財天御本地』の場合

さよひめは法華經を大蛇の首に投げ掛けた。大蛇は天女になった。

① 法華經のくりきか、又は親孝行のきとくにや、(テキスト竹 p.143)

ここで着目すべきは人身御供の時、『上方版』では法華経の影響だけで大蛇は成仏しさよひめは生き残ったが、『竹生島弁財天御本地』では法華経の功力と親孝行の奇特により大蛇は成仏しさよひめは生き残った点である。このような方法で親孝行を強調している。

また故郷まで普通船で85日かかるのを7日7夜でさよひめを乗せた船は到着した。その原因は法華経の奇特、さよひめの親孝行に神が哀れみ、そして大蛇の通力の爲であると述べている。

② 是を申も法花経のきとくにより、又は姫君の親孝行、神もあわれを
そいられて、事には大ちやのつうりき、ありかたかりし次第也。(テキスト
竹 p.144)

大蛇であった天女はさよひめが親孝行で慈悲心があるので宝を授けた。

③ おん身は孝行、殊にはじひたい一の人成友、宝をさつけ参らす
(テキスト竹 p.144)

亡くなった父が阿弥陀如来とあらわれたのも、観世音の御方便とさよひめの親孝行のおかげであるという記述がある。

④ 是ト言も観世音の御方便、又は親孝行のきとく也。(テキスト竹
p.146)

結末部分に竹生島弁財天が今の世にも流行るのは、さよひめの親孝行のおかげであるという記述がある。

⑤ 今の世にはやらせ給ひけるも親孝行のきとくにそ、こうはならせ給
ひける。

(テキスト竹 p.147)

神的存在(天)が孝子の孝行に感心し援助する内容で持って孝行の重要性を強調している個所が5個存在した。

『竹生島弁財天御本地』考

上の引用文を読み返してみれば、『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には天上界の神仏(天)が親孝行の志に感心すれば助けてくれるといった思想が窺える。その理由で『竹生島弁財天御本地』と『上方版』のさよひめは、天が親孝行の志に感動すれば助けてくれるといった考えを持っていたと推定できる。しかし本文ではさよひめ自身そのような考えを直接話してはいない。

上で確認できたように『竹生島弁財天御本地』では5個、『上方版』では2個と『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて数量的には2倍以上多い。しかし『竹生島弁財天御本地』の①、②、④に使われている“又は”という語句の爲にさよひめの孝を強調してはいるものの、孝行以外の他の要因も關与した靈験であることを表現しているのので、『上方版』のように孝行だけに焦点を絞って強調していることと比べたら効果的に親孝行の奨励を強調できていない。

2.2.3 亡き父への孝行心による矛盾性の問題

『竹生島弁財天御本地』と『上方版』ではさよひめが亡き父の供養の爲に身を賣って家を出てしまったので、母は目を泣きつぶし物狂いになり家を出、子供達に馬鹿にされるようにまでなってしまった。このように母が非常に悲惨になる姿から考えて、さよひめの孝行が眞の孝行なのか、またさよひめがなぜ父より情関係が深い生存中の母を悲惨な身にさせてまでも亡き父に犠牲的孝を行なったのかという強い疑問が浮かぶ。前で確認したように『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には天が親孝行の志に感心すれば助けてくれるといった孝意識が強く窺えた。そのような中でさよひめは天が親孝行の志に感心すれば助けてくれるといった考えの所有者だったので父より情関係が深い母を悲惨な身にさせてまでも、亡き父に對する犠牲的な孝を貫けたと考えられる。⁸⁾

8) 説経節『松浦長者』にみられる孝意識は、さよひめの父に對する孝について、疑念を抱かせられる。それはさよひめが四歳の時父は亡くなったが、さよひめは、ほとんど父について覚えていなかっただろうし、父から愛された記憶もなかっただろう。当然さよひめと父の情関係は母との情関係より深いものでなかっただろう。反面さよひめと母の情関係は深かっただろう。なぜなら父が亡くなった後さよひめは母と共に、困難な生活を共に苦勞して、十二年の間、亡き父との情関係より、母との情関係をより深く築くことができたと思えるからである。実際さよひめと母の情関係は深かった。そんな中でどうして『上方版』では、さよひめが父より情関係が深い母を泣かせてまでも、亡き父に對して犠牲的な孝を貫けたのであろうか。『上方版』には上の疑念を弱めるものとして天が親孝行の志に感動す

しかし本文ではさよひめ自身そのような考えを直接話してはいない。

一方、『上方版』の場合、さよひめは母から亡き父の13年に当たる年に父を供養する方法がないと聞き、自分の身を賣って父の供養をする決心をする。さよひめは春日の明神に自分を買うべき人がいるなら會わせて欲しいとお参りした後、さよひめは興福寺の僧から親の菩提を弔う爲に、自分を犠牲にして身を賣っても良いという説法(親の爲に身を賣ることは大善根)を聞いた。その時、さよひめと共にその説法を聞いていた人々は親の爲に身を賣ることはもっともだと認識した。ここで注目すべきは人々がその僧の説法に同意したことで、さよひめ一人だけではなくより多くの人々の納得でさよひめの犠牲孝の正当性を示そうとしている。その後、さよひめは興福寺にお参りに行った時、門のわきに器量の良い女子を高く買くと書かれていた高札を見て、彼女は自分の身をただちに賣ろうと思ったが母が泣くだろうと考え一旦家に歸った。一方、春日の明神は太夫を不憫に思い、さよひめに會えるように太夫を導いた。それでさよひめは太夫が自分を買う爲に家に訪ねて来たことを春日の明神の計らいだと考え、自分の身を太夫に賣った。上記のようにさよひめは何か見えない不思議な神的な力に導かれていることを感じたことで、よりいっそう犠牲孝を行なっても良いと確信したのだろう。

以上のように『上方版』ではさよひめが身賣りするまでにおいて、さよひめの犠牲孝の正当性と犠牲孝を必然性を示そうという意図が発見できる。

反面、『竹生島弁財天御本地』の場合、さよひめが亡き父の供養の爲に自分の身を商人に賣るまでの過程においては、さよひめは春日の明神、興福寺の僧等、第三者からの影響を全く受けず、ただ単に自分の意思のみで亡き父の供養の爲に商人に身を賣った。ところで『上方版』と同じように春日の明神は太夫を不憫に思い、さよひめに會えるように太夫を導いた。そしてさよひめは商人が自分を訪ねて来た行動に對して天の巡り合わせだと自ら思い身を賣った。

以上確認したように『上方版』ではさよひめが身賣りするまでにおいて、『竹

れば助けしてくれるといった強い思想が窺える。そうなのでさよひめは、天が親孝行の志に感動すれば助けしてくれるといった考えを持っていたから、父より情関係が深い母を泣かせてまでも、亡き父に對して犠牲的な孝を貫けたと、ある程度納得できる。拙稿、前掲書、p.289 参考。

『竹生島弁財天御本地』考

生島弁財天御本地』に存在しないさよひめの犠牲孝の正当性と犠牲孝を必然性を示そうという意図が確認できた。つまり犠牲孝の矛盾(一定の期間、悲惨な立場に母を導いたさよひめの孝行が眞の孝行なのか、またさよひめがなぜ父より情関係が深い生存中の母を悲惨な身にさせてまで亡き父に犠牲的な孝を行なったのか)を和らげようとしている。

一方、『竹生島弁財天御本地』の場合、父は自分が死ぬ前、さよひめに自分が死んだとしても母には親孝行しなさいと遺言を残した。

① 如何にさよ姫、昔か今に至迄、をやにふ孝のともからは、佛神三宝のくまれ浮世は更にし、たとへは父かなき連も、たゞ一人の母親に、孝行盡し給ふへし。(テキスト竹 p.128)

また母は父の菩提の爲とはいえ、さよひめに身を賣ってはいけないと言ったのにさよひめは身を賣った。

② 今又おん身を行ゑしらすにうるならば、あとにのこりし母か身か、何ト成へき、かいですかいですも子トは、おん諸共はなれはしまい (テキスト竹 p.129)

上の①、②のように父母がさよひめをお願いしたにもかかわらず、さよひめは父より情関係が深い生存中の母を悲惨な身にさせてまでも亡き父に対して犠牲的な孝を貫いた。つまり父母の願いを聞かなかったのである。もし母が悲惨な身の状態のままだったら間違いなくさよひめは親不幸者と判断されたのである。

これまでの検討を通して、『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて孝意識に関して非常に強い矛盾(父母がさよひめをお願いしたにもかかわらず、一定の期間、悲惨な立場に母を導いたさよひめの孝行が眞の孝行なのか、またさよひめがなぜ父より情関係が深い生存中の母を悲惨な身にさせてまで亡き父に犠牲的な孝を行ったのか)を抱かせる作品だといえる。

2.2.4 亡き父の孝行を成就(成仏)

『竹生島弁財天御本地』の場合、長者の妻は、子供が4歳の時、長者、もしくは自分の命を取ってもよいから死後の菩提の爲に男でも女でもいいから子が欲しいと言った。

あとのほたいおとわん爲なれ、少もくるしく候わす、子ト言者をさつけ
給ひ

(テキスト竹 p.126)

つまり長者の妻にとっては死後の菩提がとても重要なのである。

また『竹生島弁財天御本地』の場合、さよひめは父の菩提の爲に自分の身を賣ったのであるが最終的には父も成仏している。

めいとにおわせし父上も、姫の菩提のくりきにて、極樂場土の阿弥陀如来のけしんとあらわれ給ひけるぞ難有や。是ト言も觀世音の御方便、又は親孝行のきとく也。(テキスト竹 p.146) 縦書きの原文では傍線[場]の横に[浄]が記述されている。

父が阿弥陀如来(成仏)と現われたのは、さよひめの菩提の功力と長谷観音の御方便とさよひめの親孝行のおかげであったのである。ここでさよひめの親孝行の奇特が父の菩提に作用していること、また親孝行が偉大であることがわかる。

元々『上方版』を含めた五つの廣本と『竹生島弁財天御本地』のさよひめは父の菩提を弔う爲にさよひめが自分の身を賣る話である。そのような点で父の菩提を弔った後の結果が重要だといえる。ところが『上方版』を含めた五つの廣本においては父の菩提を弔った後、亡き父の結果(成仏したかどうか)についての記述が全くない。しかし『竹生島弁財天御本地』では亡き父は最終的に成仏(阿弥陀如来)している。そのような観点で『竹生島弁財天御本地』のさよひめは本当の意味での亡き父に対する親孝行を完全に成し遂げた(成仏させた)人物と評価できる。その点で『竹生島弁財天御本地』は『上方版』を含めた五つの廣本に比べて特異性がある作品だと判断できる。

表	『上方版』	『江戸版』	『さよひめのさし』	『さよひめ』	『まつらさよひめ』	『竹生島弁財天御本地』
父が成仏	無	無	無	無	無	有

2.3 家の繁盛に対する認識

『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には長者の娘だったさよひめが没落した家を繁盛させる場面が出る。それを図式化すると下のようになる。

(a) 『上方版』の場合

- ① 子供がいない不充足な家庭(父=母=富) 子が必要な理由は不明
↓
- ② 子供が出来、充足な家庭(父=母=子供=富)
↓
- ③ 父が死に不充足な家庭(母=子供=貧乏)
↓
- ④ 子供、母が家から出、バラバラな状態 不充足な家庭(個人の状態:
母、子供、貧乏)
↓
- ⑤ 子供、母が家に戻り、父がいないが充足な家庭(母=子供=富)
↓ 富の理由 孝を見て天が共感
家庭(父、母、夫、さよひめ)の中で、さよひめだけが成仏 大蛇も成
仏

(b) 『竹生島弁財天御本地』の場合

- ① 菩提をする子供がいない不充足な家庭(父=母=富) 母は菩提の爲
に子が必要
↓
- ② 菩提をする子供が出来、充足な家庭(父=母=子供=富)
↓
- ③ 父が死に不充足な家庭(母=子供=貧乏)
↓
- ④ 子供、母が家から出、バラバラな状態 不充足な家庭(個人の状態:
母、子供、貧乏)
↓
- ⑤ 子供、母が家に戻り、父がいないが充足な家庭(母=子供=富)
↓ 富の理由 玉の功力 長谷くわんせおん
の方便

⑥ さよひめが結婚し婦人になり、夫がいる新しい充足な家庭(母=夫=婦人=富)



家庭(父、母、夫、さよひめ)の中で、父、母、さよひめが成仏 吉さねと吉さねの妻と大蛇は成仏

上の図から兩版とも繁盛していた家が衰退し家族構成員がバラバラになったが、もう一度家族構成員が集まり家が復興することがわかる。即ち、『竹生島弁財天御本地』は『上方版』より172年後に作られた作品であるが、兩版に共通して家の繁盛を重んじている。その理由の一つとして近世社會が「家」を繁盛させようとした時期と関連すると考えられる。⁹⁾

ところでさよひめが村から家に戻った後、『上方版』の場合、少女の時期に家の繁盛内容が出るのに對して『竹生島弁財天御本地』の場合、さよひめが少女の時期とさよひめが結婚した後の婦人の時期、二つの時期にまたがって家の繁盛に對する内容が出る。これは着目すべき『竹生島弁財天御本地』の特徴である。

そして富を得た原因が、『上方版』の場合、孝を見て天が共感したのが原因なのに對して『竹生島弁財天御本地』の場合、玉の功力と長谷くわんせおんの方便が原因である。ところで玉はさよひめが孝行心と慈悲心があったので大蛇がさよひめに与えた。このように『竹生島弁財天御本地』では複雑に複数の要因が作用している。また兩版のさよひめは共通して神的な力の援助で富を得ていることが分かる。

9) 中世においては、まだ武士を中心にして、いわば同族と同義においての「家」が存在した。しかし、兵農分離以後の近世社會においては職能集団として身分化された、それぞれの階級にまで至っての家=家族・世帯が問題にされるようになる。幕藩体制は、「家」という制度を通じて、階級關係、身分制秩序、社會的諸分業が固定的に再生産されるという仕組において完成される。寛文期は、徳川幕藩体制が完成した時期と言われるが、殊に、富を貯えて經濟的に進出して來た町人(商人)階級の「家」意識が高揚し、家業に出精し、「家」を繁昌させようとした時期であったと思われる。藤掛和美、『室町期物語の近世的展開』、和泉書院、1987, pp.44-45

3. 女性への教育方法

3.1 行動後の結果による直接的(表面的)な教訓

前で見たとように『竹生島弁財天御本地』には女性は高貴な者も賤しき者も、邪慳な者であるという内容が存在する。これが基となって作品が展開していると考えられる。即ち、『竹生島弁財天御本地』には邪慳な女性を良くしよう、教育しようとする流れが発見できる。

『竹生島弁財天御本地』と『上方版』は作品の中で女性の教育の手法の一つとして、ある要因が原因で、ある者が幸福(良い方向)になるか、不幸(悪い方向)になるかで、享受層に直接的(表面的)な教訓を教えようとしている。

それを図式化し教訓の種類内容とそれが何種類か、そして教訓の種類内容が重複を含めて作品に全体で何回出るか、また教訓の種類内容は誰が教育することを願う内容かを表で整理すると以下ようになる。

(a) 『上方版』

(1) 大蛇になる前の女は村人を恨む ⇒ 大蛇になる ⇒ 大蛇になる前の女は不幸になる [不幸の要因: 村人を恨むこと 教訓: 恨むことは良くない](テキスト上pp.380-382)

(2) さよひめが法華経を讀経し大蛇が成仏する ⇒ 大蛇は幸福になる [幸福の要因: 法華経の讀経 教訓: 法華経は偉大](テキスト上pp.378-379)

(3) さよひめが讀経し大蛇が成仏しそのお礼でくれた玉で母の狂亂と盲が治り、さよひめと母は再び長者になり家は繁盛する ⇒ さよひめと母は幸福になる [幸福の要因: さよひめの孝行を天が共感したから 教訓: 親孝行の勧め](テキスト上pp.387-388)

(4) さよひめは85才で大往生し竹生島の弁才天になり全ての事(母の狂亂と盲が治り、さよひめと母は再び長者になり家は繁盛)を良い方向に導く ⇒ 全ての者は幸福になる

[幸福の要因: さよひめの孝行 教訓: 親孝行の勧め](テキスト上

pp.388-389)

教訓の種類内容(元々一つずつ単位の教訓内容になっている)

種類数	教訓の種類内容	重複を含めて出る回数	誰が教育することを願う内容か
1	親孝行の勧め	2回出る	幕府・藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容
2	恨むことは良くない	1回出る	寺社が願う内容
3	法華経は偉大	1回出る	寺社が願う内容

上のように教訓の種類内容は全部で3個で、教訓の種類内容の全体総数4個である。また幕府・藩と家長(層)が願う内容2個で、寺社が願う内容が4個である。

(b) 『竹生島弁財天御本地』

(1) 父が山賊であった時、父は12羽の子鳥と母鳥を焼き殺し、父鳥の呪いにかかることをしたことと、母が大蛇であった時、母はたくさんの鳥類とか畜生の子を自分の子の食べ物として与えた等の業 ⇒ そのことが原因で長者夫婦は子供ができなかった [不幸の要因: 仏教の不殺生戒を破る教訓: 不殺生をしてはならない](テキスト竹p.125)

(2) 長者夫婦は観音にたくさんの宝物をささげ、精魂を込めてお参りをするので子供を授けてくれと願う。それでも子供を授けてくれないならば彼らの腹を十文字に引き裂き、大蛇になり、参る者を取っては食べ下向のものを押さえて悩まし、この場所を3年の間に鹿の柴の野にすると観音を脅す ⇒ 観音は長者夫婦の熱心さと不憫さに心が動いて、子供を授ける代わりに、子供の4才の年、父か母の死を予告したが、母はそれでも良いと承諾した ⇒ さよひめが誕生した [不幸の要因: 長者夫婦には不殺生戒を破った業が残っている 教訓: 神仏の心が動けば業があっても助けてくれる](テキスト竹pp.125-126)

(3) さよひめが5歳の時、長者は5年過ぎても長者夫婦が生きている事実から観音を嘲笑した ⇒ 観音の怒りを受けて長者は病死し家は没落する [不幸の要因: 観音を嘲笑 教訓: 神仏を嘲笑してはならない](テキスト竹pp.127-129)

(4) 邪慳な女房 ⇒ 大蛇になる ⇒ 邪慳な女房は不幸になる [不幸の要因: 邪慳 教訓: 邪慳は良くない](テキスト竹pp.130-131)

(5) 法華経の奇特と姫君の親孝行に神が哀れに思い、そして大蛇の神通力⇒普通船で85日かかるのを7日7夜でさよひめを乗せた船は到着した [幸

『竹生島弁財天御本地』考

福(良い方向)の要因(複數): 法華經の奇特、さよひめの親孝行を神が哀れみ、大蛇の神通力 教訓(複合的な教訓): 法華經の偉大さ 親孝行の勧め](テキスト竹p.144)

(6) 法華經の功力とさよひめの親孝行の奇特 ⇒ 大蛇は天女になる [幸福の要因(複數): 法華經の功力とさよひめの親孝行 教訓(複合的な教訓): 法華經の偉大さ、親孝行を勧め](テキスト竹p.142)

(7) さよひめの親孝行と慈悲 ⇒ さよひめは玉をもらう [幸福の要因(複數): 親孝行と慈悲 教訓(複合的な教訓): 親孝行と慈悲の勧め](テキスト竹pp.144-145)

(8) 玉の功力と長谷観音の方便 ⇒ 母は開眼する [幸福の要因(複數): 玉の功力と長谷観音の方便 教訓: 神仏の偉大さ](テキスト竹pp.145-146)

(9) 玉の功力と長谷観音の方便 ⇒ さよひめは富を得る [幸福の要因(複數): 玉の功力と長谷観音 教訓: 神仏の偉大さ](テキスト竹p.146)

(10) さよひめの菩提の功力、さよひめの親孝行のおかげ、長谷観音の方便 ⇒ 亡くなった父が阿弥陀如来とあらわれた [幸福の要因(複數): 菩提の功力、親孝行、長谷観音の方便 教訓(複合的な教訓): 菩提の勧め、親孝行の勧め、神仏の偉大さ](テキスト竹p.146)

(11) 吉さねの女房はさよひめに犠牲的な慈悲 ⇒ 女房は神になる [幸福の要因: 犠牲的な慈悲 教訓: 慈悲の勧め](テキスト竹p.146)

(12) さよひめは慈悲が第一(最重要)の姫 ⇒ 130才まで長壽 [幸福の要因: さよひめの慈悲 教訓: 慈悲の勧め](テキスト竹p.147)

(13) 竹生島弁財天が今の世にも流行るのは、さよひめの親孝行のおかげである [幸福(良い方向)の要因: さよひめの親孝行 教訓: 親孝行の勧め](テキスト竹p.147)

分類した教訓の種類内容(複合的な教訓を一つずつ単位の教訓内容に分類)

種類数	教訓の種類内容	重複を含めて出る回数	誰が教育することを願う内容か
1	親孝行の勧め	5回出る	藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容
2	慈悲の勧め	3回出る	藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容
3	神仏の偉大さ	3回出る	寺社が願う内容
4	法華經の偉大さを教える	2回出る	寺社が願う内容
5	不殺生をしてはならない	1回出る	寺社が願う内容
6	神仏の心が動けば業があつても助けてくれる	1回出る	寺社が願う内容

7	神仏を嘲笑してはならない	1回出る	寺社が願う内容
8	邪慳は良くない	1回出る	藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容
9	菩提の勧め	1回出る	寺社が願う内容

上のように分類した教訓の種類内容は全部で9個で教訓の種類内容の全体総数(教訓を一つずつ単位の教訓内容に分けた総数)18個である。また藩と家長(層)が願う内容9個で、寺社が願う内容が18個である。

『竹生島弁財天御本地』には『上方版』にない複合的なものが幸福・不幸の要因になって幸福(良い方向)、不幸(悪い方向)になっているものがある。そしてそのような複合的な幸福・不幸の要因のものは全体で6個ある。また『竹生島弁財天御本地』には『上方版』にない複合的な教訓を語っているものも存在し、それは全体で4個あり、それらは全て複合的なものが幸福・不幸の要因になっている。

また教訓の内容において『上方版』では親孝行の勧めが2回、分類した教訓の種類内容において『竹生島弁財天御本地』では親孝行の勧めが5回出ることから、『竹生島弁財天御本地』と『上方版』は孝行を強調しようという意図が把握できる。

ところで『竹生島弁財天御本地』では複数の幸福・不幸の要因が關与し、複合的な教訓を語っているものも存在したが、これは『上方版』のように一つだけの幸福・不幸の要因が關与し、一つだけの教訓を語っているのと比べたら効果的に教訓の強調ができていない。

3.2 対極化¹⁰⁾による間接的(裏面的)な教訓

(a) 『上方版』の場合

10) 『上方版』の対極化については次の論文の一部を参考にした。拙稿、「説経節く松浦長者>にみられる‘救济者さよひめ’」、『日語日文学研究』第65輯2巻、韓国日語日文学会、2008、pp.233-236。ただ対極化について論議する過程で、上の論文で言及した部分が繰り返し出ることを明らかにしておく。

『竹生島弁財天御本地』考

(㉞) さよひめと大蛇(大蛇になる前の女)の對極化 時期:少女の時期

さよひめと大蛇(大蛇になる前の女)の相違点は正反對的要素が多い。このことは觀客層(讀者層)にさよひめと大蛇の比較を試みさせ兩者の違いをはっきり認識させる効果があると考えられる。

① さよひめは八郷八村の爲に犠牲にされた時、信仰的になったが、大蛇になる前 の女はそうではなかった。

② さよひめは怨讐である太夫と大蛇を恨もうとはせず、むしろ彼等の爲に法華經を 読み、彼等を救済した反面、大蛇は八郷八村の人々を憎み、強い恨みの 心を持ちながら九百九十九年の間、生け贄の女を食べることで村の人々に對 して恨みを晴してきた。

特に①と②さよひめと大蛇(大蛇になる前の女)の明確な違いを示している。大蛇(大蛇になる前の女)が不幸になることで、間接的(裏面的)に‘信仰心の大切さ’、 ‘人を恨むことは良くない’というメッセージを明確に伝えていると考えられる。またさよひめと大蛇(大蛇になる前の女)が少女の時期に對極化が存在することに注目すべきである。

種類数	教訓の種類内容	重複を含めて出る回数	誰が教育することを願う内容か
1	‘信仰心の大切さ’	1回出る	寺社が願う内容
2	‘人を恨むことは良くない’	1回出る	寺社が願う内容

上のように教訓の種類内容は全部で2個で教訓の種類内容の全体總數2個である。また寺社が願う内容が2個である。

(b) 『竹生島弁財天御本地』の場合

(㉟) 大蛇(大蛇になる前の女)と吉實の妻の對極化¹¹⁾ 時期:婦人の時期

11) 『竹生島弁財天御本地』の對極化については次の論文の一部を参考にした。拙稿、『竹生島弁財天御本地』研究』, 열린정신 『인문학 연구』 제13집 2호, 원광대학교 인문학연구소, 2012. pp.202-204. だが對極化について論議する過程で、上の論文で言及した部分が繰り返し出ることを明らかにしておく。

吉實の妻と大蛇(大蛇になる前の女)には對極的な面があらわれている。ここでは類似点と差異点を調べてみることにしよう。

類似点

- ① 吉實の妻は奥州伊澤郡の54郡の大將(組織の長)の妻であり、大蛇は奥州伊澤郡の54郡の總大將(組織の長)の妻であった。
- ② 吉實の妻は自分達の利益の爲さよひめを生け贄にしようとし、大蛇は自分達の利益の爲、さよひめを食べようとした。
- ③ 最後には、吉實の妻と大蛇は善なる神的存在になった。

差異点

- ④ 吉實の妻は情けがあったが大蛇(大蛇になる前の女)は情けがなかった。
- ⑤ 吉實の妻には犠牲的な心(さよひめの代わりに自分が生贄になろうとした)があったが、大蛇(大蛇になる前の女)は自己の利益のために他者を犠牲にさせる心があった。

上でわかるように吉實の妻と大蛇(大蛇になる前の女)は類似点がある反面、兩者の差異点は正反對的な面が強くあらわれている。このことは觀客層(讀者層)に吉實の妻と大蛇の女の比較を試みさせ兩者の違い(④、⑤)をはっきり認識させる効果がある。大蛇(大蛇になる前の女)が不幸になることで、間接的(裏面的)に邪慳な心を持つことは良くないことと、慈悲心の大切さを訴えていると考えられる。それを図式化すると次のようになる。

邪慳な女房(慈悲がない) ⇒ 大蛇になる ⇒ 女房(婦人)は不幸になる

⇓ 對比(對極) ➡ 邪慳な心を持つことは良くない、
慈悲心の大切さ

吉さねの女房はさよひめに犠牲的な慈悲 ⇒ 女房(婦人)は神になる

『竹生島弁財天御本地』考

上のように『竹生島弁財天御本地』は間接的(裏面的)に邪慳な心を持つことは良くないことと、慈悲心の大切さを訴える方法と、婦人の時期にこの對極化があることに注目すべきである。

種類数	教訓の種類内容	重複を含めて出る回数	誰が教育することを願う内容か
1	邪慳な心を持つことは良くない	1回出る	家長が願う内容 寺社が願う内容
2	慈悲心の大切さ	1回出る	家長が願う内容 寺社が願う内容

上のように教訓の種類内容は全部で2個で教訓の種類内容の全体総数2個である。また家長(層)が願う内容2個で、寺社が願う内容が2個である。

(4) 大蛇(大蛇になる前の女)とさよひめの對極化 時期:少女期・婦人の時期

『竹生島弁財天御本地』には、さらにさよひめ婦人と大蛇(大蛇になる前の女)を對極させることで間接的(裏面的)に代表的な理想的な婦人像の姿を示そうとしている部分がある。それを図式化すると下のようになる。

(1) 大蛇の女(婦人)

高山賀門長者は非常に慈悲深い人であったが、長者の妻(大蛇になる前の女)は情けもしらず、大悪無道の女であった。妻は人々からも憎まれていた。さらに神仏三宝にも深く憎まれていた。それで高山賀門長者の妻は邪慳の爲、あげくの果、大蛇の苦患を受け大蛇になり、召使い334人の一族、自分の3人の子供、妻の家族を食べてしまった。このように大蛇(大蛇になる前の女)は自分の家族と家まで破滅させてしまった。大蛇は池に999年住み、1年に一度女を人身御供に供えることを要求した。

(2) さよひめ婦人¹²⁾

12) 結末部分にはさよひめ婦人に対して次のように記述されている。“御堂立降奉、又船ない所に船をこき、はしな川に橋を懸、貧成人になさげを懸、地神とふに取こもり、香をつみ、花を立、昼はおん経とくしゆ有、夫殿かたく持せ給ひ、二代の長者トあをか

御堂を立て献上し、船ない所に船を浮かべ、橋のない川に橋を掛け、貧しい成人に情けをかけ、地神堂に籠もり、香を摘み、花を立、晝は御経讀誦、夫を堅く保たせ、二代の長者と仰がれ、五戒を保たれ來世の幸福を第一(最重要)と行なわれ、後ろ暗いところがなく暮した。慈悲が第一(最重要)の御姫様だったので、百三拾年の年齢を保たれた。そうして天より光が射してありがたいことに、近江國竹生島弁財天になられた。

邪慳な女房(情け知らず、大惡無道の女、人々と神仏三宝からも憎まれた)
⇒ 大蛇になる(大蛇の苦患を受け) ⇒ 召使い334人の一族、自分の3人の子供、自分(女房)の家族を食べてしまった ⇒ 夫、家族、氏族、周りの人々
⇒ 不幸、破壊、家は衰退・滅亡・破滅

⇕ 對比(對極) ➡ 理想的な婦人像(孝行心、慈悲心、宗教心、夫を堅く持たせること
と、家を繁盛させること、五戒を保つ、來世の幸福を第一(最重要)と行なうこと、
後ろ暗いところがない暮し)

さよひめ婦人[孝行心、慈悲心(船ない所に船を浮かべ、橋のない川に橋を掛け、貧しい成人に情けをかけ)、宗教心(御堂を立て献上、地神堂に籠もり、晝は御経讀誦)、夫を堅く持たせる、家を繁盛させること(二代の長者)、五戒を保つ、來世の幸福を第一(最重要)と行なうこと、後ろ暗いところがない暮し) ⇒ 家族、氏族、周りの人々 ⇒ 幸福、家は復興・繁盛 ⇒ この世で130才まで暮らした後、近江國竹生島弁財天になる

れ、五かいたもたれ後生大ーおこなわれ、あるしーらせ給ひける。姫君はじひ大ーのおん姫にて、おん年つもりて百三拾年のよわいたもたせ給ひけるとかや。さるよつて、天より光かして難有や、近江國竹生島弁財天あらわれ給ひ、今の世にはやらせ給ひけるも親孝行のきとくにそ、こはならせ給ひける。”(テキスト竹 pp.146-147) 上の船をこき、あるしーらせ給ひける、の部分は他の2つの諸本(福田晃・神田洋・真下美弥子、前掲書、pp.150-202)を参考にして解釈したことを明らかにしておく。

『竹生島弁財天御本地』考

さよひめ婦人と大蛇(大蛇になる前の女)の差異点は正反對的な面が強くあらわれている。このことは觀客層(讀者層)にさよひめ婦人と大蛇(大蛇になる前の女)の比較を試みさせ兩者の違いをはっきり認識させる効果がある。即ち、さよひめ婦人と大蛇(大蛇になる前の女)をさらには對極させることで間接的(裏面的)に代表的な理想的な婦人像の姿(孝行心、慈悲心、宗教心、夫殿を堅く持たせること、家を繁盛させること、五戒を保つ、來世の幸福を第一(最重要)と行なうこと、後ろ暗いところがない暮し)を示す効果がある。

種類数	教訓の種類内容	重複を含めて出る回数	誰が教育することを願う内容か
1	孝行心が重要	1回出る	藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容
2	慈悲心が重要	1回出る	藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容
3	宗教心が重要	1回出る	寺社が願う内容
4	夫を堅く持たせることが重要	1回出る	藩と家長(層)が願う内容
5	家を繁盛させることが重要	1回出る	藩と家長(層)が願う内容
6	五戒を保つことが重要	1回出る	寺社が願う内容
7	來世の幸福を第一(最重要)と行なうことが重要	1回出る	寺社が願う内容
8	後ろ暗いところがない暮しが重要	1回出る	藩と家長(層)が願う内容 寺社が願う内容

上のように教訓の種類内容は全部で8個で教訓の種類内容の全体總數(教訓を一つずつ単位の教訓内容に分けた總數)8個である。また藩と家長(層)が願う内容5個で、寺社が願う内容が6個である。

『竹生島弁財天御本地』にはさよひめが婦人になった以降に大蛇(大蛇になる前の女)との對極化がある。また前で女性を邪慳視する意識が強くあらわれていることを確認したが、その爲か作品には少女期・婦人期における女性のすべき事(理想的な女性像)を具体的に教えようとする意図が窺える。そして孝行心、慈悲心、宗教心、夫殿を堅く持せ、家繁盛、五戒を保つ、來世の幸福を第一(最重要)と行なうこと、後ろ暗いところがない暮しが重要 等、對極化

でより多様な教訓(願い)が間接的(裏面的)に示されている。

今まで論議したことをまとめてみることにする。

上で確認したように女性への教育方法として行動後の結果による直接的(表面的)な教訓の方法と對極化による間接的(裏面的)な教訓の方法があった。殊に『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて教訓の種類内容の数(『上方版』は教訓の種類内容5個、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容19個)と教訓の種類内容の全体総数(『上方版』は教訓の種類内容の全体総数6個、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容の全体総数28個)が相当多いことがわかる。この事實は『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて、たくさんの教訓の種類内容を繰り返して教育する手法を使用していることを意味している。

また『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には幕府・藩と家長(層)が願う内容と寺社が願う内容があったが、『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べたら相対的かつ數量的にも幕府・藩と家長(層)の願う内容がより多く含まれている(『上方版』は教訓の種類内容の全体総数6個に對して幕府・藩と家長(層)の願う内容のが總数2個で約33%(小數点以下四捨五入)、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容の全体総数28個に對して幕府・藩と家長(層)の願う内容のが總数16個で約57%(小數点以下四捨五入))。つまり『竹生島弁財天御本地』は幕府・藩と家長(層)の影響をより受けていると考えられる。

その理由として次の二つが考えられる。

1 『竹生島弁財天御本地』を語った座頭の多くは当同座に所屬し、藩との關係が深かった。

奥淨瑠璃を語ったのはほとんどが座頭であり、彼らの語る曲の中に出てくる寺社との間には隸屬の關係はなく、むしろ座頭の多くは当同座に所屬し、藩との關係が深かったと考えられている。¹³⁾ その爲、『竹生島弁財天御本地』には藩の願う内容がより多く含まれたと考えられる。反面、説経節の『上方版』では語り手層・作者層の多くが蟬丸を信奉し關蟬丸神社の支配を受けていた

13) 石井正巳,『盲巫女、淨瑠璃系の語り』,『岩波講座 日本文学史 第16巻 口承文学1』,岩波書店,1997, pp.50-51

。14) 即ち、幕府・藩との関係が深くなかった。

2 『竹生島弁財天御本地』では一般的に女性は邪慳・愚かで、またそのような心を持たないことを願う意識が存在した。

近世社会において、通常女性は男性に比べて社会的地位が低かったし、女性を男性に比べて愚かとする観念が存在していた。¹⁵⁾ その上、『竹生島弁財天御本地』では前で確認したように女性は身分に関係なく一般的に邪慳で、またそのような心を持たないことを願う意識が発見できた。その意識も大きく作用し『竹生島弁財天御本地』には家長(層)の願う内容(教訓)がより多く含まれると考えられる。

上の事実から家長(層)が家の繁盛の爲、また藩と家長(層)が女性教化の手段として『竹生島弁財天御本地』を利用したとも考えられる。

4. 結論

‘さよひめ話’の諸本群には2種類の芸能(説経節、奥浄瑠璃)の諸本があるが、奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』は説経節『上方版』より172年後に作られた作品である。また關西地方の作品である『上方版』に對して『竹生島弁財天御本

14) 土井順一、『説教者の蟬丸信仰とその芸能形態とに関する一考察』、『国文学論叢 第二十輯』、1986、pp.8-23、諏訪春雄、『近世戯曲史序説』、白水社、1986、p.44 参照。

15) 大藤修氏によれば近世の公儀の身分制に直接編成されたのは各家の長であり、それ意外の者は家長との親族関係や主従関係にもとづいて把握され、家長になるのは男性が原則で、家長は家産の管理、家業経営のみならず家政全般に管理責任を負っていたとのことである。さらに大藤修氏によれば育児、教育、病人看護、老衰者介護などの責任主体も家長であり、それゆえ家事や子育て、医療、看病、介護などに関する書物は、将来家長になる男性に向けて男性によって書かれ、その根底には、女は理に暗いので、理性を備えた男がそうした知識・技能を身につけ、家内の者たちを指導しなければならぬとする、女性は男性に比べて愚かとする観念が存在していたとのことである。大藤修、『百姓身分と家』、編者 白川部達夫、山本英二、『村の身分と由緒』、2010、p.34、吉川弘文館

地』は距離的にも遠く離れた東北地方の作品である。本稿では『竹生島弁財天御本地』の作品それ自体に焦点を合わせ『竹生島弁財天御本地』を『上方版』と比較分析することで既成論文で扱われなかった内容に対して論考を展開させた。今まで得た重要な結果を整理しまとめることにする。

『上方版』を含めた五つの廣本と『竹生島弁財天御本地』のさよひめは父の菩提を弔う爲にさよひめが身を賣る話である。そのような点で父の菩提を弔った後の結果が重要だといえる。ところが『上方版』を含めた五つの廣本においては父の菩提を弔った後、亡き父の結果(成仏したかどうか)についての記述が全くない。しかし『竹生島弁財天御本地』では亡き父は最終的に成仏(阿弥陀如来)している。そのような観点で『竹生島弁財天御本地』のさよひめは本当の意味での亡き父に對する親孝行を完全に成し遂げた(成仏させた)人物と評価できる。その点で『竹生島弁財天御本地』は『上方版』を含めた五つの廣本に比べて特異性がある作品である。さらに『竹生島弁財天御本地』では母も成仏するが、五つの廣本の中では『さよひめのさうし』だけが母が成仏している。

また『竹生島弁財天御本地』の場合、父は自分が死ぬ前、さよひめに自分が死んだとしても母には親孝行しなさいと遺言を残した。また母は父の菩提の爲とはいえ、さよひめに身を賣ってはいけないと言ったのにさよひめは身を賣った。そのように父母がさよひめにお願ひしたにもかかわらず、さよひめは父より情関係が深い生存中の母を悲惨な身にさせてまでも亡き父に對して犠牲的な孝を貫いた。つまり父母の願ひを聞かなかったのである。母が悲惨な身から解放されなかつたら、さよひめは親不孝者になってしまう。そのような観点で『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて孝意識に關して強い矛盾(父母がさよひめにお願ひしたにもかかわらず、一定の期間、悲惨な立場に母を導いたさよひめの孝行が眞の孝行なのか、またさよひめがなぜ父より情関係が深い生存中の母を悲惨な身にさせてまでも亡き父に犠牲的な孝を行ったのか)を抱かせる作品である。これは『竹生島弁財天御本地』の座頭が盲の爲に論理的に作品全体を見て創作したり修正したりするのが困難だったので矛盾性が強くあらわれたと推定できる。

そして『竹生島弁財天御本地』では12個、『上方版』では4個と『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて‘孝’が含まれた言葉を數量的に3倍使用することで孝の重要性を訴えようとしている。これは‘孝’が含まれた言葉を繰り返して教

『竹生島弁財天御本地』考

育しようとする手法を使用していることを意味している。この手法も『竹生島弁財天御本地』の座頭が盲の爲に作品全体を見て創作しづらい点がある結果、その場面、その場面で強調する爲に繰り返しが生じたと推測される。

また女性への教育方法として行動後の結果による直接的(表面的)な教訓の方法と對極化による間接的(裏面的)な教訓の方法があった。殊に『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて教訓の種類内容の数(『上方版』は教訓の種類内容5個、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容19個)と教訓の種類内容の全体総数(『上方版』は教訓の種類内容の全体総数6個、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容の全体総数28個)が相当多いことがわかる。この事實は『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて、たくさんの教訓の種類内容を繰り返して教育する手法を使用していることを意味している。これも『竹生島弁財天御本地』の座頭が盲の爲に作品全体を見て創作するのが難しく、その場面、その場面で強調した爲に繰り返しが生じたと推定できる。

上で見たように奥淨瑠璃『竹生島弁財天御本地』の語り手(座頭)は説経節『上方版』の語り手(神社仏閣で説経節を語ることで生計を成し、大部分の語り手は下層階級に屬し、漂泊芸能者と考えられている)とは違い盲であったことが、『竹生島弁財天御本地』の作品形成に影響を与えた結果、『竹生島弁財天御本地』と『上方版』との間に相当な差異が生じたと考えられる。これは奥淨瑠璃『竹生島弁財天御本地』の重要な特長である。

ところで『竹生島弁財天御本地』には一般的に女性は身分に関係なく邪慳で、またそのような心を持たないことを願う意識が見受けられる。この『竹生島弁財天御本地』に存在する女性は邪慳であるという認識は『上方版』を含めた五つの廣本には存在しない非常に獨特なものであり、『竹生島弁財天御本地』の作品の展開考える上で重要な意味がある。即ち、『竹生島弁財天御本地』には邪慳な女性を良くしよう、教育しようとする意図が発見できる。實際、上でみた『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて教訓の種類内容の数(『上方版』は教訓の種類内容5個、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容19個)と教訓の種類内容の全体総数(『上方版』は教訓の種類内容の全体総数6個、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容の全体総数28個)が相当多いことも、その表われたと考えられる。

また『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には幕府・藩と家長(層)が願う内容と

寺社が願う内容があったが、『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べたら相対的かつ数量的にも幕府・藩と家長(層)の願う内容がより多く含まれている(『上方版』は教訓の種類内容の全体総数6個に對して幕府・藩と家長(層)の願う内容のが総数2個で約33%(小数点以下四捨五入)、『竹生島弁財天御本地』は教訓の種類内容の全体総数28個に對して幕府・藩と家長(層)の願う内容のが総数16個で約57%(小数点以下四捨五入))。つまり藩と家長(層)の影響をより受けていると考えられる。

その理由として次の1、2の内容が考えられる。

- 1 『竹生島弁財天御本地』を語った座頭の多くは当同座に所屬し、藩との関係が深かった。
- 2 『竹生島弁財天御本地』では一般的に女性は邪慳・愚かであると認識した。その認識の影響で家長(層)の願う教訓内容がより多く含まれたと考えられる。

特に上の『竹生島弁財天御本地』の語り手層・作者層(座頭)と藩との関係が深かった事実が、『竹生島弁財天御本地』に新しい多様な教訓を作品に追加した起因として大きく作用していると考えられる。これは看過できない『竹生島弁財天御本地』の特徴である。反面、『上方版』では語り手層・作者層は幕府・藩との関係が深くなかった。

そして『竹生島弁財天御本地』ではさよひめが結婚し婦人になり、さよひめを通して理想的な婦人像(孝行心、慈悲心、宗教心、夫殿を堅く持たせること、家を繁盛させること、五戒を保つ、來世の幸福を第一(最重要)と行なうこと、後ろ暗いところがない暮し)を具体的に示し、婦人の役割とその大切さを示していた。これは『上方版』には存在しない注目すべき特質である。

以上の点等が発見できる点で、奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』は説経節『上方版』に比べて非常に特異な文學的特性を内包した作品だと考えられる。

[參考文獻]

<韓國>

(單行本)

拙稿, 『한국의 <심청전>과 일본의 <小夜姫>의 비교연구』, 서울시립대학교 박사학위논문, 2006

(論文)

拙稿, 『說經節<松浦長者 江戸版>의文學的特質』, 『日本學報』 第76輯, 韓國日本學會, 2008

拙稿, 『說經節<松浦長者>にみられる‘救濟者さよひめ’』, 『日語日文學研究』 第65輯2卷, 韓國日語日文學會, 2008

拙稿, 『<まつらさよひめ>と說經節<松浦長者上方版>の比較研究』, 『日本學報』 第81輯, 韓國日本學會, 2009

拙稿, 『『竹生島弁財天御本地』研究』, 열린정신 『인문학 연구』 제13집 2호, 원광대학교 인문학연구소, 2012

拙稿, 『『ちくふしまのほんし』研究』, 『열린정신 인문학연구』 15, 원광대학교 인문학연구소, 2014

야노 유리코, 『<사요히메설화>와 <심청전>』, 『比較民俗學』 10輯, 比較民俗學會, 1993

李鎔美, 『說經『まつらの長者』와 판소리『沈晴歌』의 효행 논리』, 『일본의 언어와 문학』 第6輯, 단국일본연구학회, 2000

<日本>

(基本資料)

島津久基 編, 『近古小説新纂 初輯』, 中興館, 1937

福田晃・神田洋・眞下美弥子, 伝承文學資料集成 第十輯 奥淨瑠璃集成(一), 三弥井書店, 2000

室木弥太郎, 『新潮日本古典集成 說經集』, 新潮社, 1977

横山重・松本隆信 編, 『室町時代物語大成 6』, 角川書店, 1978

(單行本)

諏訪春雄, 『近世戯曲史序説』, 白水社, 1986

藤掛和美, 『室町期物語の近世的展開』, 和泉書院, 1987

横山重 編輯, 『室町時代物語集 第4』, 井上書房, 1962

横山重 編, 『説経正本集 第一』, 角川書店, 1968

(論文)

石井正巳, 『盲巫女、浄瑠璃系の語り』, 『岩波講座 日本文学史 第16巻 口承文学1』, 岩波書店, 1997

大藤修, 『百姓身分と家』, 編者 白川部達夫, 山本英二, 『村の身分と由緒』, 吉川弘文館, 2010

阪口弘之, 『東洋文庫本「まつらさよひめ」(紹介と翻刻)』, 『大阪市立大学人文研究(国語・国文学) 卷号 34-4』, 1982

田畑真美, 『千年目の姫—「まつら長者」考』, 『富山大学人文学部纪要 34』, 2001

土井順一, 『説教者の蟬丸信仰とその藝能形態とに關する一考察』, 『国文学論叢 第二十輯』, 1986

要旨

『竹生島弁財天御本地』考
-『まつら長じや(上方版)』との比較を中心に-

吉岡浩人(瑞逸大學)

本稿では先行研究では解明されなかった奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』の独自の特徵及び、‘さよひめ話’の作品群での位置(説経節『上方版』との距離等)をより明確にしようとした。

『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて孝意識に關して強い矛盾を抱かせる作品であった。これは『竹生島弁財天御本地』の座頭が盲の爲に論理的に作品全体を見て創作したり修正したりするのが困難だったので矛盾性が強くあらわれたと推定できた。そして『竹生島弁財天御本地』では『上方版』に比べて‘孝’が含まれた言葉を數量的に3倍使用することで孝の重要性を訴えていた。この手法も『竹生島弁財天御本地』の座頭が盲の爲に作品全体を見て創作しづらい点がある結果、その場面、その場面で強調する爲に繰り返しが生じたと推測された。また女性への教育方法として行動後の結果による直接的(表面的)な教訓の方法と對極化による間接的(裏面的)な教訓の方法があったが、『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて教訓の種類内容の數と教訓の種類内容の全体總數が相当多かった。これは『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べて、たくさんの教訓の種類内容を繰り返して教育する手法を使用していることを意味していた。これも『竹生島弁財天御本地』の座頭が盲の爲に作品全体を見て創作するのが難しく、その場面、その場面で強調した爲に繰り返しが生じたと推定できた。上で見たように奥浄瑠璃『竹生島弁財天御本地』の語り手(座頭)は説経節『上方版』の語り手とは違い盲であったことが、『竹生島弁財天御本地』の作品形成に影響を与えた結果、『竹生島弁財天御本地』と『上方版』との間に相当な差異が生じたと考えられた。

また『竹生島弁財天御本地』と『上方版』には幕府・藩と家長(層)が願う内容と寺社が願う内容があったが、『竹生島弁財天御本地』は『上方版』に比べたら藩

と家長(層)の影響をより受けていた。その理由として次の1、2の内容が考えられる。

1 『竹生島弁財天御本地』を語った座頭の多くは当同座に所属し、藩との関係が深かった。

2 『竹生島弁財天御本地』では一般的に女性は邪慳・愚かであると認識した。その認識の影響で家長(層)の願う教訓内容がより多く含まれたと考えられる。

特に上の『竹生島弁財天御本地』の語り手層・作者層(座頭)と藩との関係が深かった事実が、『竹生島弁財天御本地』に新しい多様な教訓を作品に追加した起因として大きく作用していた。

■ Key words : 説経節 Setkyo, 位置 Situation, 盲 a blind person

접수일자: 2016. 10. 31 심사일자: 2016. 12. 22 게재결정: 2016. 12. 23

